医療型障害児入所・療養介護・短期入所（※重症心身障害児（者）施設）児童発達支援・放課後等デイ・生活介護（障害児・者 通所支援施設）
特定相談事業所　明和ねむの木　TEL:0596-52-0150

なでしこ通信

令和5年2月10日発行
vol.183

三重県済生会明和病院 なでしこ　〒515-0312 三重県多気郡明和町大字上野435
TEL・FAX：0596-53-0010　Eメール：nadeshiko@meiwa-saiseikai.jp ※重症心身障害児（者）に特化しているため旧名称を記載しております

新年のご挨拶

寒い日が続きますがみなさまいかがお過ごしでしょうか。この通信がお手元に届く頃には第８波のピークが過ぎ、５類への変更が決定しているかもしれません。５類に変更されると、なでしこの利用者のみなさまの生活や療育活動は大きく改善できることになります。長い我慢の時期を終えられる日が楽しみですね。ただ、感染力が強く、症状が出る前に周囲に感染させることには変わりありませんので、まったく今まで通りに戻すというより、新しい形での集団生活を模索していくことになります。コロナ禍も長くなり、コロナ以前のなでしこを知らない職員も増えてきています。この３年で人権やQOLより感染対策を優先せざるを得ない場面も多々あり、長年かけて築いてきた人権への意識が残念ながら後退している懸念もあります。今年は人権意識の向上に注力し、当たり前の生活を取り戻していけるように取り組んでいきますので、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

（施設長：山川　紀子）

デザートバイキング

11月29日（火）、お楽しみのデザートバイキングが開催されました。今年もコロナ禍の為、感染予防対策をとりながら行いました。今回は季節の食材を取り入れた和・洋・中様々なデザートや料理を利用者さんに楽しみながら食べていただけるようなメニューを考えました。羊羹２種類・スイートポテト・モンブラン・フォンダンショコラ２種類・シュウマイ３種類を、また飲み物もぶどうジュース・レモンティー・コーラ・カフェオレを用意しました。どれも普段あまり口にする機会も少ないので皆さんとても嬉しそうな表情でおいしそうに食べていらっしゃいました。デザートや飲み物をおかわりされる方も多く、その姿を見てると、こちらまで嬉しくなり開催できてよかったなぁと思いました。来年はもっと喜んでいただけるような楽しい企画を考えたいと思います。

（介護福祉士：中西）

R4入所、通所合同クリスマス会

今年度は１週間「クリスマス週間」と題し、今までにない「スペシャルなスヌーズレン」にしよう！と計画しました。プロジェクターを２台使用し、壁や天井に、オーロラや海の中、宇宙やクリスマスを意識した映像などを映し出し、いつもと雰囲気の違うスヌーズレンに、利用者さんたちも興味津々でした。

特に、新しく購入したジュピターという機材に、利用者さんは釘付け！この機材は、音や振動でもライトの光が変化します。目の前で様々な色に変化するキレイな光を見て、利用者さんは、実際に手を伸ばして触ったり、手を叩いたり、驚いたり、笑顔になったりと、たくさんの表情や反応を見せてくれました。

入所利用者さんにとって、久しぶりの通所棟での活動。通所棟に着くと、周りをキョロキョロ。スヌーズレンが始まると、プロジェクターの映像や、ジュピターの光に集中してくれました。車椅子に乗車しての参加でしたが、プロジェクターの映像が様々な方向に映るようセッティングしたので、しっかり見ることができました。入所に戻ってからは、クリスマスプレゼント渡し。もらったプレゼントを抱きしめて喜ぶ姿が見られました。

通所利用者さんも「入所さんが来てくれるよ」と声をかけると、みんな嬉しそうな表情。よく知った入所職員さんとの関わりを楽しみにしてくれる利用者さんや、入所利用者さんを見て、手を振って迎えてくれる幼児さんなど、久々に通所と入所の交流ができました。

コロナ禍になり、感染対策のため、入所と通所の関わりがない約２年間でしたが、今回は天井から透明の大きなビニールのカーテンを設置しました。入所利用者さんと通所利用者さんの直接的な接点を無くし、換気などの感染対策を徹底したことで、ひとつの大きな空間で一緒の活動に参加することが出来ました。

今回のテーマである「スペシャルなスヌーズレン」を実行するために、職員間で意見を出し合いながら、新しい機材も購入して、今までにない体験型の活動になったと思います。今後も感染対策などを徹底しながら、利用者さんも職員さんもワクワクできて、一緒に楽しめる新しい活動を提供できたらと思っています。

（保育士：城山・大西）

～ドキドキ♪オンライン演奏会～

11月24日（水）チェリー＆グレープさんによるオカリナの演奏会をなでしこで初めてオンラインで開催しました。今回は、感染対策の為、８号室の利用者さん３名に参加していただきました。

ちゃんと音が聞こえるのか？利用者さんにどう伝わるのか？ドキドキしながらスクリーンを眺めていると、笑顔のチェリー＆グレープさんが手を振ってくれている映像が映し出されました。無事にチェリー＆グレープさんの声が聞こえ、曲紹介と共に演奏が始まりました。オカリナの優しい音色に８号室が包まれ、フロアにいた利用者さんも自然と８号室前に集まり、音色を楽しんでもらうことができました。かずこさんは鈴を振り楽しまれました。なみさんはしっかりと顔をあげてスクリーンを見ながら笑顔で、歌うように声を出してくれました。けいこさんは知っている曲の時には元気よく歌を唄ってくれました。それぞれがニコニコしながら音色を楽しまれました。全部で10曲＋アンコール曲を演奏していただきあっという間の30分間でした。

職員も久しぶりの交流に心が弾みました。やはり外部の方と繋がる楽しさは、普段では味わえないことを改めて実感することができました。今後も楽しい時間を提供できるよう、新しい企画を計画していきたいと思っています。

（指導員：中村）

度会特別支援学校　文化祭
～ それぞれの文化祭 ～

なでしこでは２名の利用者さんが訪問教育を利用し、度会特別支援学校に在籍しています。10／28～11／２にかけて度会特別支援学校では文化祭が開催されました。訪問教育を利用するなでしこのお二人も、それぞれの形で参加することができました。

小学部に在籍する利用者さんは初めてのスクーリングに挑戦です。ダンスに参加したり、みんなの作った創作物を見たりと素敵な文化祭でした。初めての校舎、初めての学校行事、そして初めて直接会うお友達！たくさんの初めてに触れることができ、ご本人にとってかけがえのない学びの体験ができたのではないかと思います。

中学部に在籍する利用者さんはなでしこからオンラインにて文化祭に参加することができました。今年は沖縄返還50周年で、中学部は沖縄をテーマにパフォーマンスをしました。利用者さんもパーランクーという手持ちの太鼓を持ち一緒に演奏しました。

これからも利用者さんの貴重な学びの機会を、なでしこでも支えていけたらと思います。

（指導員：別所）

連載コラム

障害者がリモート接客

～ 活躍の場広げるプロジェクト ～

障害者の就労や活躍の場を広げる「アバタープロジェクト」が始まった。

コロナ禍となった近年、リモートで会議や仕事をすることが広まった。そのことが新たな就労の方法となりつつある。それは、障害をもつ方の就労でも同じである。「アバタープロジェクト」では、足が不自由な方や知的障害がある方が会場近くの操作室からパソコンを操作してモニターに映るアバターを動かし、接客をしていた。リモートでの就労は障害者雇用でも広がってきており、職域の拡大も少しずつ進んでいる。

モニターに映るアバターでオペレーターとして接客をしていたが、遠隔操作でロボットのアバターを動かし商品を提供するなどの接客の仕事をしている方もいる。また、寝たきりなどの重い障害をもつ方や指を上手く動かせない方でも視線でパソコンを操作しアバターを動かす方法もある。足が不自由でも、また障害が重く移動が難しい方でも、このようなリモートを使用すれば自宅に居ながら仕事をすることが出来る。仕事の内容も、手を上手く動かす事が出来ない方や障害が重い方は簡単な作業やデータの打ち込みなど限られたものになりがちである。しかしアバターを使えば、人と関わる接客の仕事も出来るようになる。障害者の就労では難しかった仕事や働きたくても、働くことを諦めていた方もリモートやアバターを使えば働けるようになるのである。それは、障害をもつ方の生きる世界を広げ、自立にも繋がっていくと考えられる。

実際、重い障害をもちながらリモートを使用し起業した方や、自宅からアバターのロボットを操作し、接客の仕事についている方のニュースを見たことがある。皆さんイキイキと仕事をしており、働ける喜びを語っていた。「アバタープロジェクト」に参加された方も、「緊張するけど、楽しい」と語っている。また、話すのが苦手な方もアバターを通すと積極的に話す姿も見られたとのことから、アバターは障害をもつ方にとってはコミュニケーションを取りやすくなるツールとしても効果があるようだ。

アバターを接客サービスに取り入れる企業が少しずつ増えている。今後、もっとリモートやアバターが障害者雇用に取り入れられ、障害をもつ方の職域拡大に繋がっていくのではないかと思う。そして、障害がある・なしに関わらず、リモートやアバター、その他いろいろな方法を使用し、皆が同じように働ける時代が来ればいいなと思う。

（福祉新聞2022年12月6日号「障害者がリモート接客　活躍の場広げるアバタープロジェクト」より）

（看護師：松月）

毎月発行の「福祉ニュース」に掲載されている記事の中から一つ選び、その内容や感じた事をリレー形式で載せていきます。

・・・第17回みえる輪ネット（三重県南部医療的ケア地域支援連携会議）・・・

～ 非常時電源の確保と学校看護師の役割 ～

11月20日（日）みえる輪ネットがオンラインで開催されました。今回はお二人の講師を迎えご講演いただきました。認定NPO法人アンビシャス沖縄県難病相談支援センター副理事長の照喜名通様には「医療的ケア児の非常時電源確保を支える」をテーマに災害時に困らないための備えが大切であること、個々に適した機器の準備が必要であることを教えてもらいました。医療法人財団はるたか会Nurse Fight担当の植田陽子様には「学校で働く看護師の役割」についてお話いただきました。学校看護師と教員が専門性を活かしながら行う教育とは、安全確保が第一優先ではなく、教員が立案した指導計画が実施し続けられるように健康面をサポートするのが学校看護師の役割だと言われていたのが印象的でした。参加者からは日頃感じている学校に関する悩みや不安などが聞かれ貴重な意見交換の場となりました。オンライン研修ではありますが、様々な方の意見を聞くことができ、私もまたがんばろうと思える研修会となりました。

（指導員：倉井）

ご寄付をお願いいたします

当施設では、皆様からのご寄付を受け付けております。施設に賜りましたご寄付は、当施設の利用者さんの日常がより充実したものになるよう職員一同大切に活用させていただきます。多くの皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。

※本誌に記入されている写真は本人又、家族の了承を得て使用しています。